

怒り新たな河野に主謀者の組合



1988.11.4
No. 2919

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五〇六（公衆）〇四七二二七二〇七

11/1 労働委員会審問 2回開かれる！ 中野委員長堂々と証言 当局側シンドロ・モドロ

十一月一日、反動車務課長・河野による木戸君（千転）に対する組合脱退強要事件の不当労働行為救済申立て地労委第二回審問が開催された。

地労委会場狭しと三十五名の組合員が傍聴に結集し、当局側弁護士による中野委員長審問に集中した。

シンドロモドロの

当局側弁護士

この第二回審問は、当局側による委員長審問であり、二時間の審問時間を自ら要求しておきながら中野委員長の適格な答弁と主張の前にシンドロ・モドロとなってしまう、一時間程度で早々と盛りあげてしまった。

しかも、河野による不当労働行為が一〇〇%明らかたため当局側弁護士もそれをゴマカスことに頭が奪われ、質問すればするほど動労千葉の闘いの正当性・組合つぶしの不当性が浮彫りになった。

傍聴者からも「言いのがれはやめろ」といった声すら出されていた。

当局は居直りをやめて 直ちに謝罪せよ！

河野は、木戸君への全く不当な組合脱退強要をはじめと不当な組合つぶしを今もなお続けている。彼は、不当労働行為を反省するどころか「脱退強要など行っていない」と開き直り続けている。

それならなぜ、堂々と地労委の場に出てきて釈明

京葉線を闘いの拠点に

京葉線協議会 取集開催10/24

十月二四日、京葉線地区営業協議会は、職場集会を開催、当面する最大の闘争課題である「十二・一ダイ改」阻止、スト貫徹に向けて、闘いの体制をうち固めました。職場集会には、本部から田中企画部長が参加、活発な討論が行われました。

京葉線協議会は、強制配転以降、営業協議会の最先頭にたつて、当局の組合潰しの意図をはね返してがんばりぬいています。この闘いは、「JRのモデル線区」たる京葉線を逆に動労千葉の闘いの拠点に転化させてきました。また、長期波状ストライキにおいてもその先頭にたち、動労千葉の

しようとしなののか？われわれの「言い分を聞こう」という提起に対し、「準備に間に合わない」と逃げるのは何故か！
一人の若き労働者の人権さえ踏みにじっておきながら今さら逃げまわる卑劣な当局を断じて許さない。木戸君を全体で包みこみ地労委闘争に必ず勝利しよう！

次回は十一月二十五日 いよいよ木戸君が証言に

河野の居直りを許さず、断固闘いぬこう。同時に、いよいよ京葉線暫定開業十二月一日ダイ改合理化との闘いが最大の山場を迎えている。当局の団交無視、団交軽視、合理化強行を断じて許さず、全支部、全営業協議会、全組合員は十一月五日以降、スト突入準備体制を確立し、闘いぬこう！
十一月二五日、十時（集合）九時三〇分・本千葉駅前）地労委に集まろう！

明日（15日）よりスト突 入準備体制、全支部 10.5取集集会がちとろろ

けん引車となっています。われわれは、今後ほとんどを卑劣な組合潰しも、絶対に労働者の魂まで打ち砕くことはできないことを示しぬきたいと思えます。

実際、京葉線では、新駅開業にもなり強制配転等をめぐって、鉄道労連組合員のなかからも、積もり積もった不満が爆発しています。しかし、国鉄労働者の怒りを代表して闘えるのは動労千葉以外にいません。京葉線協議会は、「十二・一ダイ改」阻止闘争の最先頭にたつ決意です。